

## 人力車と池田

### 人力車に初めて乗る

人力車は、明治時代に入ってから、東京で創案されたともいわれています。庶民の交通手段が未発達だった当時、たちまち全国に普及しました。

池田の旧家の日記には、早くも明治10年（1877）、箕面での紅葉狩りの帰路、初めて人力車に乗ったと、誇らしげに記されています。すでにこのころには池田のまちでも、新しい時代の乗物を眼にすることができたようです。

### 余野〜池田間3往復

その人力車の運賃ですが、明治36年（1903）の『大阪府豊能郡案内地図』によると、阪鶴鉄道池田停車場（現JR宝塚線の「川西池田」駅）から池田町まで8銭、木部まで10銭、多田院へ20銭、箕面まで25銭、妙見鳥居前まで35銭。雨天夜中は割増ありとなっています。

ところで、大正8年（1919）



戦後の阪急「池田」駅前に並ぶ人力車

### 交通機関の発達で

発行の『東能勢村誌』によると、このころ、東能勢村（現豊能町）では人力車の利用客が多くて車夫が足りず、時には一人でも池田へ3往復することもあったと記されています。池田と余野間は、片道10キ以上。それも現在のように整備されていない路面の道を、人を乗せた車を引くのですから、当時の車夫の脚力には驚かされます。

しかし、庶民の足であった人力車も、郊外交通機関の発達や、自動車や自転車の普及に押され、次第に衰退していくことになりました。

昭和3年（1928）、府内で2千台以上あった営業用人力車は、同10年には五分の1の444台にまで激減しています。池田警察署管内の営業用人力車も、自動車の進出で

年々減っていることが、同6年の新聞に掲載されています。ちなみに、同14年の統計では、池田では人力車22台に対し、自転車3798台、乗用自動車85台でした。

### 戦後も走った人力車

昭和33年（1958）の朝日新聞に、池田でただ一人残っていた62歳の現役車夫が紹介されました。最後に、その車夫が語っている話を紹介しましょう。

「池田にも戦争前には四、五十人の車夫がいましたんやけど、いまでは：わたいた一人になってしまいました。：こないだも遠足に来た小学生がわたいの車を見て、わア無法松（注）の本物があるよ」と黒山の人だかりです。：いまではまっぴるまに乗ってくれはる人はあれしまへん。：こんなんは時世おくれやさかい、しゃあないとわたいたもあきらめてま。しゃあけど夜さりに毎日必ず二、三人のお客さんはありまっせ。：せまアい路オ地をはいるのはこれに限りまっさかいに。：車代は一キロ半が七十円の勘定になつとります。：この土地に古いさかいに、どんなところでも探して親切が、だれにも負けへんサーピスだんな」（注：無法松の一生）

問い合わせは社会教育課市史編纂  
☎753・2904

## みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「はがきいろいろ―葉書が描く時代―」 ~10/8日 ●特別展「池田氏と牡丹花肖相」 10/20(金)~12/3(日) ☆ミュージアムミニトーク (10/22日)14:00、聴講無料	●10:00~18:00 ●月・火曜日・祝日、10/11(水)~19(木) ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●特別展「細川護熙・加藤静允 数寄に生きる 一書・画・陶磁―」 ~10/9(祝)	●10:00~17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日(祝日の場合は翌日) ●一般1,000円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園 池田文庫 ☎751・3185	●宝塚歌劇と民俗芸能 10/11(水)~12/3(日) ☆講演会…宝塚の民俗芸能研究の歴史的要義―「国民文化」と「地域文化」のはざま― (11/18土)13:30、聴講500円	●9:30~17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日、第1水曜日、祝日(月曜日の場合は翌日) ●200円(図書館は無料)	

わがまち  
歴史散歩

市史編集だより②

橋くればはし 呉服橋 ①

西国札所への橋

猪名川に架かる呉服橋。大阪府と兵庫県とをつなぐこの橋には、毎日の多くの車や人が行き交います。

江戸時代中ごろからこの場所には、たびたび仮橋が架けられてきました。それが本格的な大橋に架け替えられたのは、文化12年（1815）のことでした。橋のたもと池田西ノ口町（現西本町付近）が世話人となり、人々から寄付を募って架橋したので



池田側から見た呉服橋(箕面市総務課文書担当蔵)

す。当時は、西国三十三所の二十三番札所勝尾寺（箕面市）から二十四番札所中山寺（宝塚市）への順路の橋であることから、「順礼橋」と呼ばれていました。

それが現在の呉服橋と改称されたのは、明治に入ってからのことです。明治11年（1878）、旧家の日記に「呉服橋」の名が初めて登場します。改称は池田の古名「呉服の里」にちなんだものだったようです。ただ、日記ではかなり後まで「順礼橋」とも記載されています。「順礼橋」の名は、長く人々に親しまれていたといえるでしょう。

寄付金から税金へ

ところで、洪水で流されるたびに寄付を募って再興されてきた呉服橋ですが、やがて、税金によって維持されるようになりました。明治15年（1882）、地方税1460円を投じて架け替えられます。同17年度の池田村の財政規模が2000円余りですから、橋の維持がいかに大変であったかがうかがえます。ちなみに、このときの竣工式の渡り初めは、豊島能勢郡役所や池田村の役人らに学校の生徒たちも加わる盛大なものでした。

しかし、木橋だったためでしょうか、その後も何度か流され、特に同29年（1896）の大洪水の被害は甚大で、「流失して影を止めず」と記されています。



川上から見た呉服橋(歴史民俗資料館蔵)

絵葉書はがきになった呉服橋

今回紹介する写真は、明治の終わりから大正初めごろの呉服橋の絵葉書です。上の写真には、そぞろ歩く着物姿の人々、端正に組まれた木製の欄干、モダンな外灯、はるか遠くに宝塚の山々も望めます。また、右の写真には、木製の橋脚や、対岸に「呉服座」と並ぶ規模を誇った芝居小屋「川西座」などが見えます。

どちらも当時の呉服橋の姿を知る貴重なものです。このような木橋の時代は、その後も、しばらく続きました。

問い合わせ 社会教育課市史編纂(城山町3-45、城山勤労者センター内、☎753・2904)  
※火曜・祝休日は休館。

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●特別展「池田氏と牡丹花肖柏」 ~12/3(日) ☆記念講演会…「牡丹花肖柏と連歌の世界」 帝塚山学院大学名誉教授・鶴崎裕雄さん (11/19日14:00~、池田郷土史学会協賛)	●10:00~18:00 ●月・火曜日・祝日(11/3は開館) ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●秋季展「京の風雅—円山四条派と京焼—」 ~12/10(日) ☆講演会…「応挙から呉春へ」 美術史家・橋本綾子さん (11/25日14:00~、13:00から座席券配布)	●10:00~17:00(入館は16:30まで) ●月曜日(祝日の場合は翌日) ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園 池田文庫 ☎751・3185	●宝塚歌劇と民俗芸能 ~12/3(日) ☆講演会…「宝塚の民俗芸能研究の歴史的意義—「国民文化」と「地域文化」のはざま—」 (11/18日13:30、聴講500円)	●9:30~17:00(入館は16:30まで) ●月曜日、11/1(水)・23(祝) ●200円(図書館は無料)	



▲大正末年ごろの呉服橋（歴史民俗資料館所蔵）

今回はちよつと変わった姿の呉服橋をご紹介します。左の写真をご覧ください。橋の下流、池田側から眺めたものです。  
ちよつど中央付近を境に、右（池田）側と左（川西）側で、橋の様子が大きく異なっているのがお分かりいただけるでしょうか。左側の一部がコンクリート製の見るからに頑丈そうな橋脚であるのに対し、右側は

橋（呉服橋②）  
半分木橋、半分鉄橋

わがまち  
歴史散歩

市史編纂だより

数本の支柱からなる木製の橋脚で、橋そのものの構造もずいぶん異なっています。

洪水による流失で

なぜ、このような不思議な構造の橋になっているのでしょうか。前号でご紹介したように、呉服橋は明治さらには大正時代に入ってから木橋で、猪名川の大水のたびに被害を受けてきました。

『大阪春秋』19号の「池田呉服橋の由来」コーナー（林田良平著）によると、写真の呉服橋も、もとは大正8年（1919）に建設された木橋でしたが、大正10年ごろの洪水で川西側の三分の一ほどが流失。その修復工事により、流失した部分をコンクリートの橋脚と三角に部材を組んだトラス橋にして、残った両側の木橋と継ぎ合わされたのです。そのため、写真のようにちぎはぐな橋脚や橋体、構造となりました。

さらに橋中央部には、写真でもひときわ目立つ、大型の三角の補強部材が取り付けられ、横から見ると、いくつかの橋が混在しているかのような、まさに「日本一珍奇」な橋となったのです。

橋幅は5倍に

大変ユニークな姿をしたこの橋も、昭和7年（1932）、当時、北摂随一と称された最新式の鉄橋に架け替えられ、その姿を消します。そし

てそのモダンな橋も、さらなる交通量の激増に伴い、平成9年（1997）3月、現在の橋に架け替えられました。



▲昭和7年架橋の呉服橋（小田康徳さん所蔵）

1台の車の影もなく、着物姿の人たちが行き交った木橋時代、わずか2間（約3・6m）ほどだった橋幅は、昭和7年には2倍の7・3mに、さらに現在は18・8mにまで拡張され、それでもあふれんばかりの自動車が、毎日通過していきます。わずか百年ほどの間に大きく姿を変えた呉服橋ですが、交通の大動脈として重要な役割を担っていることに、昔も今も変わりありません。

呉服橋など市内の橋の昔の写真をお持ちでしたらお知らせください。

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻 3500円、第2巻 4200円、第5巻 4500円、第3巻（近代編）と第4巻（現代編）は編纂中。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●特別展「池田氏と牡丹花宵柏」 ～12/3(日) ●企画展「一生涯200年記念— 広瀬旭荘と池田の文人」 12/15(金)～2/18(日) ☆ミュージアムミニトーク (12/17(日)14:00、聴講無料)	●10:00～18:00 ●月・火曜日・祝日、 12/6(水)～14(木)、12/28(木)～1/4(木) ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●秋季展「京の風雅—円山四条派と京焼—」 ～12/10(日)	●10:00～17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日(祝日の場合は翌日)12/11(月)～1/12(金) ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園 池田文庫 ☎751・3185	●宝塚歌劇と民俗芸能 ～12/3(日)	●9:30～17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日、12/4(月)～1/5(金) ●200円(図書館は無料)	



池田のまちとペスト

はじめてのペストの流行

近い将来、鳥インフルエンザの変異による新型インフルエンザの出現が懸念されています。大正7年(1918)に大流行し、世界で数千万人の死者が出たというスペイン風邪も、このタイプのインフルエンザによるものだったことが知られています。

世界各地では、新型インフルエンザだけでなく、コレラや天然痘などさまざまな感染症が、これまでに幾度となく大流行を繰り返してきました。中世ヨーロッパで猛威を振るっ

たことでも知られているペストもこうした感染症の一つです。

ペストの日本での流行の始まりは、約100年前の明治32年(1899)とされています。台湾から来航した船舶から、ペスト菌を持ったネズミとペスト菌に感染した船員が神戸港に上陸。このネズミによって周辺地域にペストが拡大し、大阪・兵庫・広島・福岡・和歌山などで流行しました。

ネズミ1匹5銭で買い取り

この年の11月、池田の呉服橋西詰めでも検疫が行われました。神戸方面からの汽車(現JR福知山線)の乗客を対象としたもので、わざわざ検疫委員が出張しての実施でした。

しかし、こうした努力もむなしく、翌33年5月、ついに池田でもペストが発生しました。新聞記事によると、このとき池田では交通を遮断、周辺家屋などの消毒や住民健康診断のほか、全町挙げてのネズミ狩りが実施

され、ネズミ1匹5銭での買い上げも行われたとあります。

また、旧家の日記にも、小学校が休校となり、数日後には家族全員が健康診断を受診、また、

天井から床下までの大掃除、6月に入ってからは、「ペスト針スル」と、学校で2回にわたって注射が行われたことが記されています。

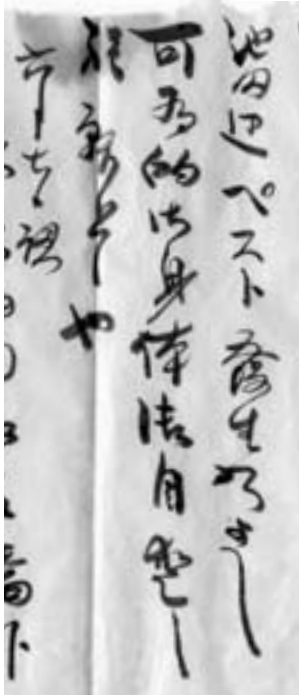
周辺地域へも大影響

この池田でのペスト発生を受けて、豊能郡(現豊中市・池田市・箕面市・豊能町・能勢町)では、郡長が郡内町村長を招集し、予防についての打ち合わせを行うとともに、隣接兵庫県でも、知事や県警部長などから県内各都市長あてに、その対応策が通知されています。

多田村(現川西市)では、「池田町へは自分の間行かないよう」「池田町から来た者や通過した者には充分注意を」「風邪気味の場合は速やかに医者へ」「池田町などからの未消毒のボロギレ・古綿・古紙などの搬入禁止」など、このときに矢継ぎ早に出された通達が残されています。池田は多くの人々が頻繁に行き交う北摂中心の町であっただけに、周辺地域にも大きな脅威を与えたことがうかがえます。

やがて、こうした対策が功を奏したのか、新聞からは新たなペスト発病の記事が見られなくなり、流行も収束に向かっていったものと思われ

ます。  
問い合わせは社会教育課市史編纂  
(07533・2904)



池田のペスト発生を心配する手紙

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「一生誕200年記念-広瀬旭荘と池田の文人」 ~2/18(日) ☆ミュージアムミニトーク(1/21(日)14:00、聴講無料)	●10:00~18:00 ●~1/4(木)、月・火曜日・祝日 ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●早春展「千家のお茶と職家のお道具」 1/13(土)~3/4(日)	●10:00~17:00(入館は16:30まで) ●~1/12(金)、月曜日(祝日の場合は翌日) ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	展示なし(図書館のみ開館)	●9:30~17:00(入館は16:30まで) ●~1/5(金)、月曜日、第1水曜日、祝日(月曜日の場合は翌日も) ●200円(図書館は無料)	



▲大正15年3月、畑の梅林で催された池田町長退任慰労会（弓場勲さん所蔵）

## 畑の梅林

### 隠れたる梅の新名所

満開の梅林に集う人びと、この写真は、大正15年（1926）に撮影されたものです。場所は「畑の梅林」。池田市史の編纂のために、今回、市民の方から提供を受けた貴重な1枚です。

写真に見られるように、かつて、畑地域には見事な梅林が広がっていました。大正年間の「阪神毎朝新聞」によると、もとは江戸時代の領主麻

## わがまち 歴史散歩

市史編纂だより

田藩の梅林だったそうで、1万本の老樹を擁する日本有数の梅林ながら、当時は一般にはあまり知られておらず、「隠れたる梅の新名所」と紹介されています。

### 茶店や臨時の乗合自動車も

やがて、阪急電鉄が宝塚の「宝梅園」や神戸の「岡本梅林」などにも、「畑の大梅林」と大々的に宣伝するようになると、大阪方面から大勢の梅見客が訪れるようになりました。現在の府立池田高校の西側から麻田藩主代々の菩提所仏日寺、秦野小学校辺りにかけては、シーズンともなると梅の花で埋まり、まさに「白銀の林」「香の海」だったと伝えていきます。地元の人たちが経営する茶店や売店もあり、上酒1合20銭、関東煮30銭、すし40銭、茶碗蒸35銭という記事も載っています。

実際、昭和初年、石橋から歩いて観梅に訪れた福良竹亭の随筆『百楽荘漫記』には、道中1町（約100メートル）ごとに案内の木札が立ち、畑の集落を望む近くに紅白の幕が高く掲げられた梅林は、上下に分かれて一面に広がり、茶店があり、また所々に「席代無料」の床机が配されていた様子が描かれています。

昭和4年（1929）3月、阪急電鉄が畑の梅林への梅見客のために、石橋停留所から乗合自動車の運行を始めました。梅の時期のみの期間限

定で、運賃は片道10銭、往復15銭、ちなみに当時、梅田と石橋間の電車賃は18銭でした。その後も観梅時期になると毎年運行願いが出されていることから、畑の梅林が多くのお客でにぎわっていたことがうかがえます。

### 梅林からサツマイモ畑へ

しかし、やがて世の中は戦争へ。昭和13年（1938）には戦時体制の燃料統制によって休止。代わって一時期、乗合馬車が登場しましたが、戦局が深まるにつれ、これも廃止。梅林自体も食糧増産のためのサツマイモ畑などに姿を変えていきました。戦後、宅地化が急速に進み、景色は一変してしまいましたが、昭和48年（1973）、かつての畑の梅林を復活させようと、水月公園に梅林が設けられることになりました。

今ではすっかり梅の名所として市民に親しまれている水月公園。今年も梅の花の季節を迎えました。かつての畑の梅林に思いをはせながら、観梅を楽しむのもいいかもしれませ

### ★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第5巻4500円、第3巻（近代編）と第4巻

（現代編）は編纂中。問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

## みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「一生涯200年記念— 広瀬旭荘と池田の文人」 ～2/18(日) ●企画展「平成18年度新収資料公開展」 2/28(水)～5/6(日) ☆ミュージアムミニトーク (2/18日)14:00、聴講無料	●10:00～18:00 ●月・火曜日・祝日、2/21(水)～2/25(日) ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●早春展「千家のお茶と職家のお道具」 ～3/4(日) ☆講演会…「十職の好み」 林原美術館館長・熊倉功夫さん (2/17(土)14:00～)	●10:00～17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日(ただし、2/12月開館、2/13火休館) ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園 池田文庫 ☎751・3185	展示なし(図書館のみ開館)	●9:30～17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日、第一水曜日、祝休日(月曜日・第一水曜日の場合は翌日も) ●図書館は無料(企画展入館時は200円)	

乗合馬車と池田

木部・箕面・余野へも

『大阪府豊能郡案内地図』（明治36年発行）に、阪鶴鉄道（現JR福知山線）の時刻表と並んで池田停車場（現JR川西池田駅）からの馬車の運賃が掲載されています。池田町まで5銭、木部まで8銭、箕面まで15銭、雨天夜中は「相当割増アリ」などがあります。当時、この地域ではまだバスがなく、鉄道乗降客向けに乗合馬車が運行されていたことが分かります。



▶現国道176号沿いを石橋から「畑の梅林」へ向かう乗合馬車（市立北豊島中学校郷土研究部編「郷土のあゆみ」6冊より）

一方、乗合馬車は街道が整備されると、山間の村々へも通うようになりました。『東能勢村誌』（大正8年発行）によると、明治26年（1893）、細河村木部（現池田市木部町）と東能勢村大字余野（現豊能町余野）間に乗合馬車が開業。午前と午後11回ずつ、1日2便の運行で、両村を出発した馬車は途中の止々呂美村（現箕面市）で接続、乗員は8人とあります。同区間の運賃は60銭、所要時間は余野発が約2時間半、その逆の木部発は上り坂のためでしか約3時間半でした。

馬車はやがて、自動車や自転車などの交通機関に押され、この木部―余野間の馬車路線も大正13年（1924）のバス開通とともに姿を消しました。

復活した乗合馬車

ところで、前回のこのコーナーで、かつて、石橋と「畑の梅林」とを結んで季節運行されていたバスが戦時体制の燃料統制によって昭和13年（1938）に休止、代わって、乗合馬車が登場したことを紹介しました。すでに昭和のこの時期でも乗合馬車は旧式な乗物だったので、地元畑の住人から営業許可申請が提出されて「大阪府交通課では…ビックリ、可否に頭をひねっていたが、ガソリン節約時代でもあるので…許可書を出した」と、当時の新聞は伝えています。

この乗合馬車は9人乗り、緑の車体にヘッドライトが取りつけられ、馬を扱う人は13年の経験をもつベテラン、馬は一昨年まで西宮の鳴尾競馬に出ていたそうです。毎朝6時から夜9時まで通年運行され、開業初日は通勤客で満員の盛況だったと伝えられています。

馬車に揺られて

ここに、開通間もないころこの馬車に乗った心境をつづった随筆があります。皆さんも一緒に同乗してみましよう。

「馬の歩みにつれて、先づ前後に強いゆれを感じる。さうかと思つと又馬の歩く度に左右にもゆれるのである。自動車に馴れた私たちには乗合馬車がこの点大いに不愉快、一面又、時代色を帯びた存在にも思はれるのである。二十数町を馬は喘ぎながら登って行く。その窓から近くみえた梅の一輪一輪は大層なつかしいのである。時々馭者は真鍮のラップを口にあててブーとぶく。かうして馬車は見る人よりも乗っている人に一層なつかしい昔のメロディーを聞かしてくれるのであった」（和田篤憲「乗合馬車」『日本の顔』所収）

問い合わせは社会教育課市史編纂  
☎753・2904

みゅうじあむ・がいど

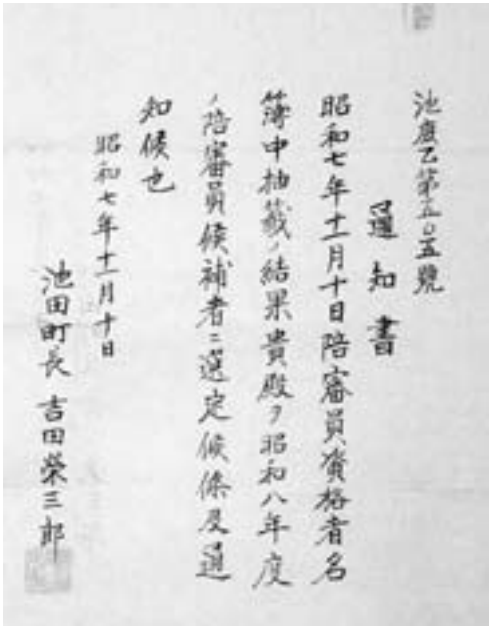
館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「平成18年度新収資料公開展」 ～5/6(日) ☆ミュージアムミニトーク(3/18(日)14:00、聴講無料)	●10:00～18:00 ●月・火曜日・祝日 ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●早春展「千家のお茶と職家のお道具」 ～3/4(日)	●10:00～17:00(入館は16:30まで) ●3/5(月)～4/2(月)、月曜日(祝日の場合は翌日) ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	展示なし(図書館のみ開館)	●9:30～17:00(入館は16:30まで) ●月曜日、第1水曜日、祝日(月曜日・第1水曜日の場合は翌日も) ●図書館は無料(企画展入館時は200円)	



## 陪審制度と池田

### 80年前の陪審制度

平成21年(2009)から裁判員制度が始まります。一定の重大な刑事裁判で、国民から選ばれた裁判員が、裁判官と一緒に審理を行う制度です。国民が裁判に参加する制度は、アメリカ、イギリスなど世界のいくつかの国々でも行われています。実は、日本でも戦前、陪審制度と



▶抽選で選ばれた陪審員候補者への池田町長からの通知書

呼ばれる制度が実施されました。審理参加者である陪審員の資格条件や裁判に関与できる範囲など、今回導入される裁判員制度とは多くの点で異なっていました。いずれも国民が裁判に参加することをめざした制度でした。

### 女優も模擬裁判に出演

大正15年(1926)、池田小学校講堂で陪審模擬裁判が行われることになりました。新聞記事によると、町の有力者が陪審員となつて、証人には女優が出演とあります。架空の事件は、純朴な青年による放火殺人未遂事件でした。

裁判に一般の国民が参加するといふ、日本の近代司法制度上、初めての制度ですから、そのための周知活動の一つだったのでしよう。

陪審法の制定は大正12年(1923)、施行は昭和3年(1928)。この5年の準備期間中、こうした模擬裁判や講演会が各地で開催されたようです。府内でも、新たな制度に向けて町村長らが研究会を開いたり、陪審員資格者名簿を作成したりと、さまざまな準備作業が行われました。

### 池田の放火事件も陪審裁判に

制度開始前年の昭和2年(1927)、陪審員候補者の抽選が行われました。候補者は国税を3円以上納めるなどの条件を満たした日本国民の男性に限られていました。当時の池田町での資格者は428人、その中から候補者20人が抽選で選ばれました。

その後、多少の人数の増減を伴いながらも、毎年末に候補者の抽選が行われています。池田町の場合、有資格者から、およそ二十分の一の確率で選ばれ、中には再選されている陪審員も確認できます。

陪審裁判の対象となつたのは、被告人が否認している重罪事件でした。しかし、さまざまな制約のために運用件数が少なく、戦争の激化とも相まって、昭和18年(1943)、陪審法は停止されました。結局、その15年間に陪審裁判が行われたのは、全国でわずか約500件弱。この中には、池田で発生した放火事件もあったようです。池田の陪審員が、こうした陪審裁判に実際に臨んだかどうかについては不明です。

ところで、この陪審法は廃止されたわけではなく、あくまでも「停止中」であつて、現在も法律は生きています。

問い合わせは社会教育課市史編纂 (07533・2904)

## みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「平成18年度新収資料公開展」 ～5/6(日) ☆ミュージアムミニトーク(4/15(日)14:00、聴講無料)	●10:00～18:00 ●月・火曜日、祝日 ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●春季展「茶碗—逸翁が愛した名碗たち—」 4/3(火)～6/10(日)	●10:00～17:00(入館は16:30まで) ●～4/2(月)、月曜日(祝日の場合は翌日) ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	●春季企画展示 生誕130年「曾我廻家五郎の喜劇展」 4/17(火)～5/27(日)	●9:30～17:00(入館は16:30まで) ●月曜日、第1水曜日 ●図書館は無料(企画展入館時は200円)	

### 「井戸の辻」の井戸

#### 見つかる

本誌でも何度か紹介した「井戸の辻」。サカエマチ2番街とほんまち通り商店街が出合う場所です。ここは、古くから能勢街道や順礼道が通る北摂交通の中心であり、池田のまちの「へそ」ともいえる大変重要な場所でした。

その名前の由来となった井戸の可能性のある遺構が、つい最近、本通りの整備に伴う工事によって、この場所から発見されました。

井戸はアスファルトの下、約50センチほどの深さに、数枚の石材を組み合わせた大きな石でふたをされ、そのふた石を取り除くと、開口部直径約1メートルほどの整然とした石組みの姿を見せました。内部はまったく崩れることなく残っており、深さは約8・5メートル。底には約1メートルほどの水がたまっていて、すぐにも使えそうな状態でした。

残念ながら、井戸は車道に位置した場所にあり、安全を期すために埋め戻されました。しかし、意外と身近な場所に、まだまだ多くの池田の

歴史が眠っているかも知れません。



重機を使って、慎重にふたを外す



土中から露出した大きな石材の井戸のふた



ライトに浮かび上がった見事な石組みの井戸の内部



姿をあらわした井戸

池田市史の刊行状況  
『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第5巻4500円、第3巻(近代編)と第4巻(現代編)は編纂中。  
問い合わせは社会教育課市史編纂  
(0753・2904)

## みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「平成18年度新収資料公開展」 ~5/6(日) ●企画展「むかしのくらし 山とのかかわり」 5/16(水)~7/22(日) ミュージアムモニター(5/20日14:00、聴講無料)	●10:00~18:00 ●月・火曜日・祝日、5/9(水)~5/13(日) ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●春季展「茶碗 逸翁が愛した名碗たち」 ~6/10(日)	●10:00~17:00(入館は16:30まで) ●月曜日 ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	●春季企画展示 生誕130年「曾我迺家五郎の喜劇展」 ~5/27(日)	●9:30~17:00(入館は16:30まで) ●月曜日、第1水曜日、祝日(月曜日・第1水曜日の場合は翌日も) ●図書館は無料(企画展入館時は200円)	



## 五月山の忠魂碑

### 牛と人の人海戦術



植木畑の中を行く巨大な石。なにやら石には旗が立てられています。荷車を引いているのは牛。後方に見えている大きな建物、細河小学校。昭和3年（1928）の光景です。当時はまだ国道423号はありませんから、昔ながらの余野街道を通っているでしょう。それにしても、けん引の牛は少なくとも5頭はいるようですし、作業に従事している人々も20人は下らず、ずいぶん大掛かりな運搬ですね。

このときの作業に携わった方の子孫は、「荷車の車輪がよく回るように、海草を敷いた」と、当時のこ

植木畑の中を行く巨大な石。なにやら石には旗が立てられています。荷車を引いているのは牛。後方に見えている大きな建物、細河小学校。昭和3年（1928）の光景です。当時はまだ国道423号はありませんから、昔ながらの余野街道を通っているでしょう。それにしても、けん引の牛は少なくとも5頭はいるようですし、作業に従事している人々も20人は下らず、ずいぶん大掛かりな運搬ですね。

とを伝え聞いていたところ、このときでした。下の写真ではこの巨石が台座に載せられて斜面を引っ張り上げられていきます。

実はこの石は、五月山公園に今でも設置されている忠魂碑の台石です。撮影された場所はこの五月山公園南側の斜面かもしれません。五月山ドライブウェイも開通している現在ならば、トラックや重機で、たちどころに運搬・設置というところでしょうが、当時はまだ五月山公園はもろろん、そこに至る車道もありませんでした。ですから、現在の設置場所まで引き上げられる際は、写真のように石の台座下に「ころ」が入られ、人力で引き上げられたのでしょう。大変な作業だったことがよく分かります。



### 重さ22トの忠魂碑

忠魂碑は戦死者を祈念する碑で、日露戦争後に全国的に広く造られるようになりまし。市内にはこの碑のほか、細河小学校から細川神社に移設されたものなど、いくつかが残っています。しかし、建立作業の写真が残っているのは、今のところこの碑のみです。

昭和3年9月18日、除幕式が盛大に挙行されました。当時の新聞によると、参列者は来賓・遺族・在郷軍人など数百人。また、建設にあつたの大阪府への許可願いに奔走したエピソードや、建立費用はすべて当時の池田町の有志の寄付によるものだったことなども紹介されています。完成した碑石重量は2500貫（約9・4ト）、台石3500貫（約13・1ト）、総高23尺（約7.3）。今でもその碑を前にすると、その巨大さが実感されます。

### ★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第5巻4500円、第3巻（近代編）と第4巻（現代編）は編纂中。

問い合わせは社会教育課市史編纂（城山町3-45、城山勤労者センター内、☎753・2904）

※火曜日、祝休日は休館。



## ギャラリーコーナー

MAP: 国道176号、歩道橋、てるてる広場、池田線、池田駅、阪急「池田」駅中央改札口、財団事務所、ギャラリーいけだ

#### 【ギャラリーいけだ】

- 「痕跡」西村滋作品展 ~6/4月
- 井手津久雄陶芸展 6/6水~11月
- 佐々木和子個展 6/13水~18月
- 仲尾政伸絵画展 6/20水~25月
- 安田勝彦絵画展 6/27水~7/2月

#### 【ギャルリVEGA】

- ザ・スペース小品展 ~6/4月
- クラフト・ワークス8人展 6/6水~11月
- 手づくり作品グループ展 6/13水~18月
- 大阪空港カルチャースクール 油絵科グループ展 6/13水~18月
- 第十五回青洋会展 6/20水~25月
- トールペイント&ブリザーブドフラワー・フレッシュリザーブドフラワー作品展 6/27水~7/2月
- 桂田アッセンデルフト田中教子 6/27水~7/2月

【開館時間】 10:00~19:00（最終日は16:00まで）

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円（展示販売不可）

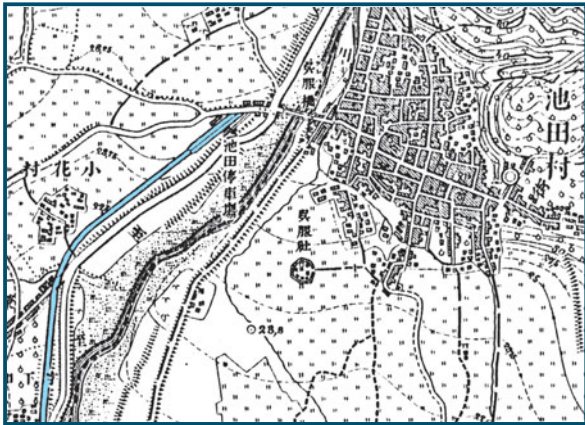
ギャルリVEGA 15万円（ブロックの分割

使用=7・10万円=、展示販売も可）

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは  
（財）いけだ市民文化振興財団  
☎750・3333



陸地測量部作成の二万分の一仮製地形図( )の部分  
が摂津鉄道)

わがまち  
歴史散歩

市史編纂だより③

摂津鉄道と池田停車場

川西の「池田停車場」

左の図は明治19年(1886)測量、同31年修正の陸地測量部作成の地形図です。現在の川西市側、呉服橋の西詰に「池田停車場」という記載があります。この時期、阪急電鉄の前身箕面有馬電気軌道は開通していません。とすると、この「池田停車場」は何の駅だったのでしょうか。

明治26年(1893)、この地域に初めて鉄道が開通します。摂津鉄道です。もとは尼崎から伊丹間を馬車によって運行していた川辺馬車鉄道が前身です。輸送力向上のために馬車から機関車に変更して、伊丹から延伸、猪名川沿いを北上して設けられた終点が「池田停車場」でした。当時、この辺りは川辺郡小花村・小戸村です。で、「池田停車場」と名付けられたのは、近郷随一のにぎわいを誇っていた池田の町を念頭においてのことだったでしょう。

鉄道の時代

日本初の鉄道開業から20余年。摂津鉄道の開通によって、機関車を初めて目にした池田の人も多かったのではないのでしょうか。猪名川の対岸を、煙を吐きながら走る機関車の姿に、「近代化」を実感したのかもかもしれません。旧家の日記にも開業の日の12月12日、「河(川)西汽車開業式」とあり、親子で見に行っています。さらに2日後の14日には、早速汽車に初めて乗ったこともあり、関心の高さをうかがわせます。  
ちなみに、箕面有馬電気軌道が開通したのは、さらに20年ほど後の明治43年(1910)のことでした。

板垣退助、摂津鉄道に乗る

ところで、摂津鉄道が開通した翌年、自由民権運動で名をはせた板垣退助が池田へ来ました。2月8日、

大阪から2人引きの人力車を仕立て来池。当時は国道176号はなかつたので、おそらく能勢街道を通ったと思われず。池田では夜に懇親会合に出て演説、旧家で1泊しています。長時間人力車に揺られての移動は、さぞや疲れたことでしょう。



池田停車場があった辺り(国道176号を呉服橋より50mほど西進した地点)

消えた池田停車場

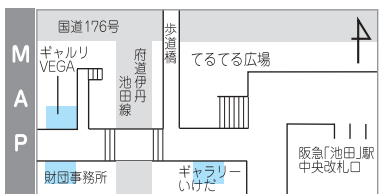
翌朝、板垣は人力車ではなく、汽車でたちます。開業から2カ月も経たないこの「池田停車場」から摂津鉄道に乗り、尼崎を経由して神戸に向かいました。

明治30年(1897)、阪鶴鉄道が摂津鉄道を買収。このとき、「池田停車場」は、その手前から、宝塚への延伸のために路線が付け替えられたことにより、廃止されました。この路線が今のJR福知山線です。

結局、呉服橋西詰に「池田停車場」があったのはわずか4年ほど。残念ながら、今は全くその面影をとめていません。

問い合わせは社会教育課市史編纂(☎753・2904)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 安田勝彦個展 ~7/2月
- 山本太郎陶展 7/4(水)~9月
- 新田勝油絵展 7/11(水)~16(祝)
- 尾崎直己/墨と色彩展 7/18(水)~23(月)
- 奥畑司油彩展 7/25(水)~30(月)

【ギャラリーVEGA】

- トールペイント&プリザーブドフラワー・フレッシュプリザーブドフラワー作品展 ~7/2月
- 桂田アッセンデルフト・田中教子 ~7/2月
- 第7回ACF川西写真展 ~四季の山野草と花華~ 7/4(水)~9月
- 手作りハウス 7/11(水)~16(祝)
- 第2回那須説・和子「絆展」 7/18(水)~23(月)
- 栗山ナカノ個展 7/25(水)~30(月)

【開館時間】10:00~19:00(最終日は16:00まで)

【休館日】火曜日

【入館料】無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円(展示販売不可)

ギャラリーVEGA 15万円(ブロックの分割

使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは  
(財)いけだ市民文化振興財団  
(☎750・3333)